

【日本側コーディネーター及び拠点機関名】

日本側拠点機関名	京都大学霊長類研究所
日本側コーディネーター所属・氏名	京都大学霊長類研究所・古市剛史
研究交流課題名	チンパンジー属類人猿の孤立個体群の保全に関する研究
相手国及び拠点機関名	コンゴ民主共和国・生態森林研究センター、キンシャサ大学 ギニア共和国・ボツソウ環境研究所、ンゼレコレ大学 ウ ガンダ共和国・ムバララ科学技術大学、マケレレ大学

研究交流計画の目標・概要

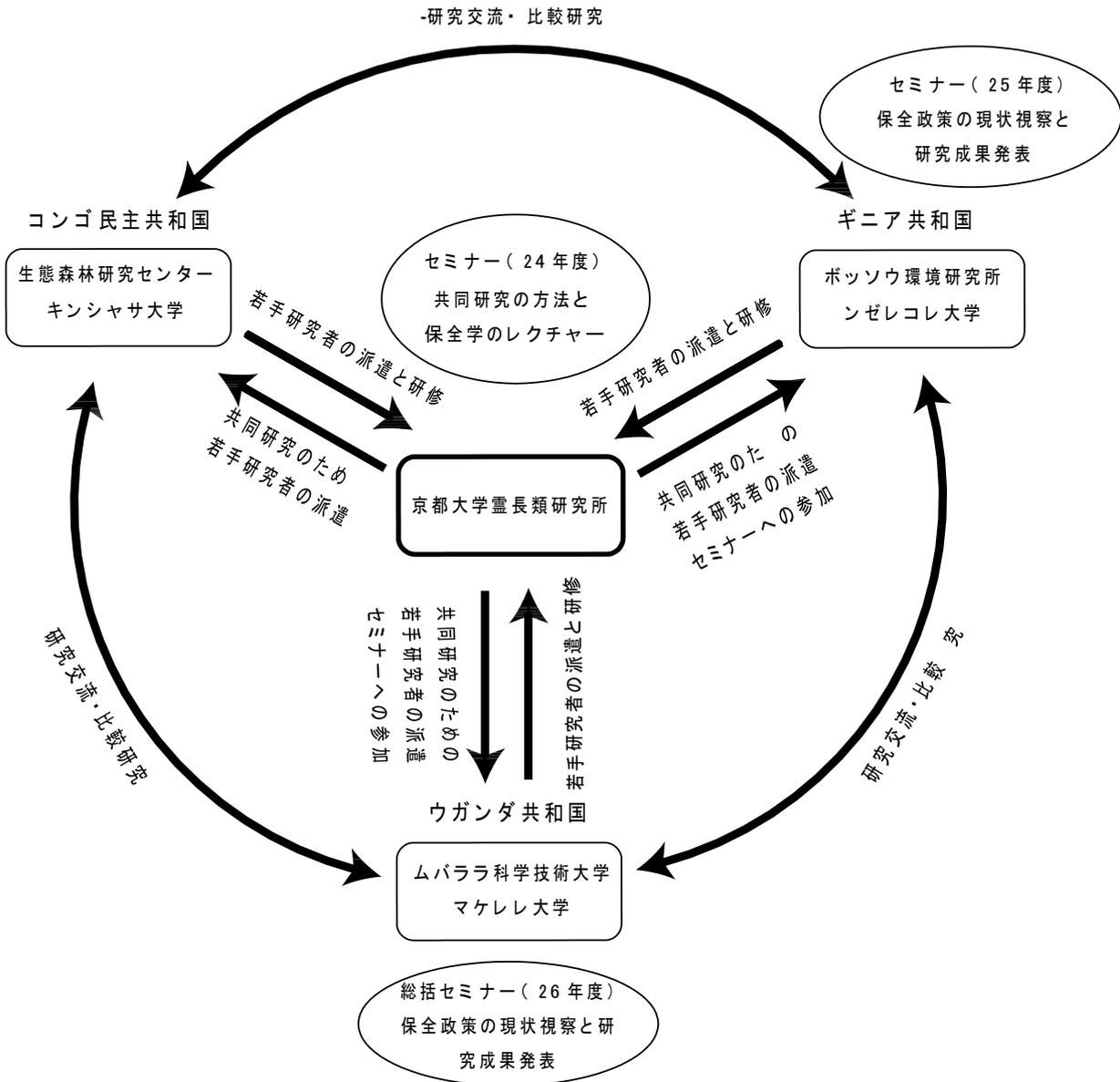
〔研究交流目標〕

日本の霊長類学は、ヒトのルーツを探ることを目標として、50年以上前から類人猿の野外研究を続けてきた。とくに京都大学霊長類研究所は、ヒトにもっとも近いチンパンジー（Pan）属のチンパンジーとボノボの長期調査地を3か所もかかえ（チンパンジー：ギニア共和国・ボツソウ、ウガンダ共和国・カリズ、ボノボ：コンゴ民主共和国・ワンバ）、霊長類学の国際的センターとなっている。しかし現在、これらの調査地の個体群は、森林伐採や農地開発などによって孤立し、地域住民の森林資源の利用による植生の質の低下、密猟等の違法行為、孤立による遺伝的多様性の低下、ヒトから類人猿への病気の感染など様々な要因によって、存続上の危機にさらされている。本計画では、これらのリスク要因を回避するための自然科学・社会科学的調査・研究を行ってその成果をそれぞれの調査地での保全の実践に生かし、さらにその手法を同様の問題をかかえるアジア・アフリカの様々な類人猿生息地に発信していくことを目標とする。当研究所は、平成21～23年度にアジア・アフリカ学術基盤形成事業の支援を受けて、コンゴの生態森林研究センター、ギニアのボツソウ環境研究所、ウガンダのムバララ科学技術大学とネットワーク型の研究基盤を築いて類人猿の環境適応機構についての比較研究を行ってきた。この結果、日本・アフリカ間のみならずアフリカ側拠点機関間の交流も深まり、アフリカ側研究者の学術的意識と研究能力も飛躍的に高まった。本計画では、あらたに3つの拠点機関を加えてネットワークの拡充と強化を図り、本研究課題のみならず、将来様々なテーマの類人猿の比較研究をアフリカ側研究者と協力して行える土俵としたい。また、23年8月にコンゴで行った締めくくりの国際シンポジウムでは、アフリカ側拠点機関から、このネットワークをもとにアフリカ霊長類学会の設立を目指すべきだとの提言があった。日本の主導によってアフリカ霊長類学会を設立するというこの長年の夢についても、本計画の3年間に実現にむけた道筋をつけたい。

〔研究交流計画の概要〕

- ①共同研究 本研究では、類人猿の孤立集団の存続にかかるリスク要因のうち、(1)孤立による遺伝的劣化、(2)ヒトから類人猿への病気感染、(3)地域住民による森林資源の利用に関する研究を行う。(1)と(2)については、環境省の助成による研究で、糞サンプルを用いたDNAと病原抗体の分析手法を確立した。本研究ではこの手法を用い、各国の複数の地域個体群の遺伝的多様性を調べ、個体群のサイズや孤立からの年数と遺伝的多様性との関係を調べる。感染症については、同上の個体群で病原抗体のモニタリングを継続的に行い、ヒトから類人猿に感染する病原体の種類と影響を調べる。(3)については、トヨタ財団の助成による研究で、住民による森林資源利用の実態を定量的に評価する手法を確立した。本研究ではそれを用いて同上の個体群周辺でモニタリング調査を行い、森林資源の利用と類人猿の保全の両立を可能にする計画の立案に用いる。
- ②セミナー 平成24年度は、各海外拠点機関の研究者を1ヵ月間霊長類研究所に招き、上記(1)～(3)の分析手法に関するトレーニングと、GIS（地理情報システム）による情報分析、保全計画立案の方法等についてのセミナーを開催し、その成果を持ち帰って各研究機関の研究者に伝えてもらう。現行の計画で23年度にコンゴの拠点機関で総括セミナーを開いたため、25、26年度は、ギニアとウガンダの拠点機関でセミナーを開催する。そこではまず、各拠点機関周辺の類人猿保護区を視察し、それぞれの地域のかかえる保全上の問題と対応策についての知識を4国の研究者で共有する。またそれに続く研究発表会で、本研究課題の進行状況と成果について発表し、各国の経験を持ち寄って保全計画の立案についての議論を深める。また26年度の総括セミナーでは、アフリカ霊長類学会の設立に向けたロードマップを定める。
- ③研究者交流 アフリカ側拠点機関間の連携を強化するため、各拠点機関の研究員を24年度はコンゴ、25年度はギニア、26年度はウガンダの研究機関に派遣し、それぞれの調査地や研究体制の視察、研究成果の報告、将来の共同研究に向けた相談などを行う。

[実施体制概念図]



日本の主導による
アフリカ霊長類学会の設立準備